



### 令和4年度 春の叙勲

◆瑞宝中綬章

塩田浩平

(昭46年卒)  
元滋賀医科大学長



写真1 「SHIRAN CAFE」の内装



第209号

発行所  
一般社団法人 芝蘭会  
京都大学医学部同窓会

〒606-8315  
京都市左京区吉田近衛町  
TEL 075-751-2713  
FAX 075-752-4015  
E-mail: info@shirankai.or.jp  
http://www.shirankai.or.jp

#### 主な内容

- ② 退任あいさつ
- ③ 校友会・KMS-FUNDだより
- ④ 新任あいさつ
- ⑤ 支部だより「東京」
- ⑥ 第二の帝大 大阪から京都への裏話
- 人事異動会員計報

## 芝蘭会館別館レストランを リニューアルオープン

# 「SHIRAN CAFE」が再出発 ご来訪をお待ちしています

#### 主なメニュー

- 丼…………… 700円～1,000円
  - サンドイッチ… 400円～600円
  - ドリンク…………… 380円～600円
- ※お弁当も別メニューでご提供します

#### 店舗情報

- 営業時間 11:00～17:00
- 休業日 なし  
(土曜、日曜、祝日も営業)
- 電話番号 075-752-1027



「SHIRAN CAFE」のロゴ

平成2年1月6日に開館した芝蘭会館(平成16年に京都大学医学部の創立百周年を記念して建設され、以降は芝蘭会館別館に名称を変更)は、併設するレストラン「しらん」において、本格的で美味しいフランス料理を提供してきました。

芝蘭会員の皆様をはじめ、多くの方々にご利用いただいていたのですが、この度、時代の変化に対応するため、レストラン「しらん」の改修工事を行いました。

明治39年に創立された芝蘭会のスローガンである「会員相互の親睦を図る」という理念を生かす場として、調度品等のリニューアルも行い(写真1参照)、名称を「SHIRAN CAFE」としました。

新しく、雰囲気も軽やかで、入りやすいレストランに模様替

えをし、5月23日(月)から営業を始めております。

改装コンセプトは「居心地の良い空間」「新しいレストランのコンセプトは、COZY SPACE、つまり「居心地の良い空間」を創出することです。お客様がゆったりとくつろぐことができる空間を提供したいという想いから、カフェ業態を展開することとしました。

京都大学の医学部等の学生さんが勉強する空間、大学の教職員や関係者がランチをする空間、医学部附属病院の教職員など、たくさんの方々にとって使い勝手が良い空間を提供します。

また「SHIRAN CAFE」を通じて、地域との密着をも目標とし、地域や大学(サークル)のイベント利用など、幅広い観

点から愛される店舗を作りあげていくことをめざしています。

学生にも教職員にも「使い勝手の良いメニュー」

「SHIRAN CAFE」ではこの度、京都大学の学部生・大学院生と教職員、医学部附属病院の教職員にリーズナブルな食事を提供するため、京都大学の卒業生やOB・OGの方にとどのようなニーズがあるのかを徹底的に調査しました。

たくさんの方の意見を賜り、学生には嬉しい井や、サンドイッチなどをメニューに用意しました。その中の一品には京都大学のOB・OGの方の創案によるメニューも盛り込まれています。

イトインでゆつくりくつろげる空間を提供しつつ、持ち帰りでも利用できるメニューを考案しました。価格もリーズナ

ブルに設定し、この地域で活動するたくさんの方にとって「使い勝手の良さ」を最優先にメニューを取り揃えました。

一方、レストラン「しらん」がこれまで提供してきた本格的なフランス料理につきましても、多くのお客様からのご要望が根強くあり、ご予約をいただいたデザイナーやバンケットでご提供することとしております。

中庭にはテラス席も

また、令和元年からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響は大きく、生活様式の変容が起こりつつあることを考慮し、新たに中庭にテラス席を配置しました(写真2参照)。たくさんの方に「使い勝手の良い」空間でゆつくりとくつろいでいただくために、屋外でランチができるよう



写真2 中庭にはテラス席を配置

に工夫しました。

医学部附属病院が近くにあるということもあり、病院関係者の方々にもゆつくりとくつろげる空間を楽しんでいただけます。

芝蘭会会員には割引料金をご提供

さらに、芝蘭会会員向けの割引制度を考案中であり、芝蘭会員の医学部生・大学院生・教職員は、1割から2割の割引料金での利用が可能となる予定です。芝蘭会が割引料金を負担。

運営体制も刷新

新装開店にともない、新たにレストラン「SHIRAN CAFE」を運営する「株式会社ステップ・まんざらグループ」は、1985年創業で、京都市内に8店舗と滋賀県に3店舗を展開しています。居酒屋業態に留まらず、カフェ事業や病院食事業など、幅広い事業を展開する企業です。

# 優秀な同僚と部下に恵まれ 医学教育に尽くした日々



静岡県立総合病院 院長  
小西 靖彦

令和4年3月末をもって京都大学を退職し、静岡県立総合病院に異動しました。たくさんの方々にお世話になった日々を思い出し、感謝の心とともに退任のご挨拶をいたします。

私は平成23年4月に医学教育推進センター教授として着任しました。東京の済生会本部で特別参与(教育担当)として若干の経験はありましたが、卒前6年間の学生教育と卒後2年間の研修医教育の責任者となるには心の底から不安がありました。11年間やってこられたのは、優秀な部下に恵まれたこと以外に

理由はありません。当時の湊長博研究科長から大鉾を振るうようにと言われました。臨床研修部門には済生会時代からの盟友だった伊藤和史病院教授に来ていただいて、病院助教3名との体制で学生から高い評価を受けるレベルに引き上げてもらいました。

医学教育推進センターには教育、研究、学生生活、学部と全学業務、学外公的業務など膨大な仕事があります。研修医の京都府定数が283名から201名に激減することが決まりそうになった平成25年には首相官邸まで行って押し戻したこともありました。医学教育学会の理事長、厚労省の医師国家試験委員長、文科省の医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の座長などを務めることがで

き、多忙でしたがやりがいのある仕事が多かったことに感謝しています。京大が医学教育の国際標準の認証を受け、京大生が国際的に活躍する基盤を作ったこともよい思い出です。

平成25年からブラウン大学、チュービンゲン大学、国立台湾大学など7大学と交流協定を次々結び、毎年約10名の学生が臨床で留学するようにまでしました。ここでは加藤源太准教授

(現病院教授)の献身的なアシストがありました。また、平成29年に組織替えがあり医学教育・国際化推進センターとなりました。我が国の医学教育における人材育成で京都大学がトップランナーとなったのは、「現場で働く指導医のための医学教育プログラム―基礎編」を錦織宏准教授(現名古屋大学教授)が中心となって作ったためです。

コロナ禍でオンライン授業や臨床実習の再開に力を尽くして京大生の学びを守ってくれたのは山本憲講師の力でした。ここまで述べてきたとおり「医学教育組織はヒトで成り立って」います。岩井一宏研究科長、宮本享病院長の指示により、4月からは静岡県立総合病院の院長として白衣を着て仕事をしています。静岡県は人口10万人あたりの病院勤務医数が134・8人と全国ワースト2(京都府はベスト3)です。京都大学の戦略のなかで静岡県立総合病院が果たす役割は非常に大きなものがあります。当院は、静岡県の医療をリードしていくとともに、医師育成の文脈で京都大学との関係をさらに強固にしていきたいと思います。今後とも芝蘭会のみならず、ご指導とご鞭撻のほどをお願いいたします。

# 退任あいさつ

## 京都大学循環器内科 での20年



国家公務員共済連合会  
枚方公済病院 病院長  
木村 剛

私は2002年8月に循環器内科助教として京都大学医学部附属病院に着任し、翌年には当時の北徹教授の御配慮で助教の立場で循環器内科診療科長を、さらに2009年4月には循環器内科教授を拝命しました。2022年3月末をもちまして20年が経過し、無事に定年退任させていただくことに

なりました。着任当時は京都大学循環器内科を国際的に通用するハイポリウムセンターに発展させるという目標を掲げており、しかしながら京都府立医科大学附属病院を始め多くの競合施設のある京大病院が抱える地政学的な問題は大きく、目標はとうてい実現不可能

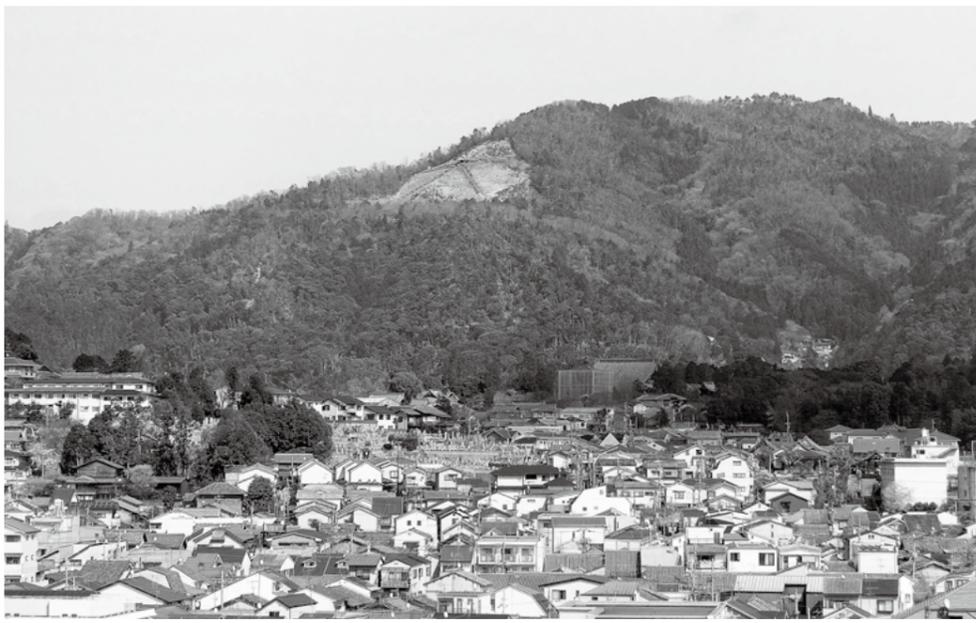
であることが私にも判ってきました。また私自身も症例数増加至上主義の持つ危うさも認識するようになり、京都市北部の循環器医療、救急医療をしっかりと担うという点をボトムラインとして診療を継続してまいりました。「救急患者を断らない」をモットーに患者や開業医の先生からの電話を直接受けるホットラインを開設して、循環器救急医療を重視してまいりました。これは実際には「言うは易しく行なうは難し」なのですが、これらの方針を患直に守っていただいたスタッフや専攻医の皆様のおかげには本当に感謝しております。

研究面では診療プラクティスを変えるような大規模臨床研究を推進することに傾注してまいりました。京大病院全体の症例数は限られているのですが、関係病院には小倉記念病院や倉敷中央病院など多くのハイポリウムセンターがあり、これらの関係病院の皆様に全面的な御支援をいただいて大規模多施設臨床を進めることが出来ました。この10年は最高水準の国際学会のレイトブレイキングセッションに我々のグループからほぼ毎年発表し、それらの研

究成果をもとに日本の循環器診療は大きく変わったと自負しております。近年、高齢化社会の進行に伴い急性心不全入院の患者数が増加しておりますが、特に超高齢患者で重症肺炎や腎不全を合併し濃厚治療を要する重症患者の増加が顕著になっております。この傾向は今後ますます強くなると思われ、病院には重症患者

への対応能力の強化が強く求められていますと感じています。私は4月以降、枚方公済病院という救急医療を前面に据えて展開している中規模病院に異動いたしますが、集中治療専用病床数が限られる中で増加する重症患者にしっかりと対応出来る強い病院となるよう知恵を絞りたいと考えています。枚方公済病院

は多くの診療科が京大病院からの御支援をいただいておりますが、今後、なお一層の御支援をお願い出来れば大変ありがたい存じます。最後に芝蘭会会員の皆様のお心をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。ご健勝を心より祈念いたしまして私の退任のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



医学科研究棟から一望する大文字山



正門越しに覗く医学部A棟。A棟には医学教育・国際化推進センター(旧医学教育推進センター)が設置されている

# ご注意

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。



# 京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金

( KMS-FUND ) だより

〒606-8501  
京都市左京区吉田近衛町  
京都大学医学研究科事務部  
総務企画課企画広報掛  
TEL 075-753-4695  
075-753-4322  
FAX 075-752-1528  
Mail-Address:  
kyoto-kms-fund@office.  
med.kyoto-u.ac.jp

## 世界的研究の拠点たる 万全な支援体制を



KMS-FUND委員長(2022年)  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授  
大森孝一

令和4年度も引き続き京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)委員

Student and Researcher Support Fund(KMS-FUND)委員の委員長を拝命いたしました。よろしくお願いたします。

医学部学生会館の建設(平成22年竣工)に始まり、現在学生会館はクラブ活動の部室や24時間利用可能な自習室として活用されており、平成26年度からは清掃事業を業者委託し、備品修

理やエアコンの追加設置も行いました。

学生の教育や研究活動支援としては、平成25年度より開始した医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)は、毎年3名の大学院生、学生に表彰状と賞金20万円の副賞が授与されてい

ます。平成28年度より開始したM D研究者育成奨学金は、特色入試に合格した学生がM D研究者育成プログラムに進み、6年間のプログラム在籍中は毎年

48万円の助成を受けることができます。また、京都大学医学部の臨床実習(ポリクリ)は5回生と6回生に行っており、第一

線の関連病院で臨床教授の先生方に御指導いただくことは学生にとって貴重な機会ですが、東は静岡県から西は福岡県まで広範囲で交通費や宿泊費がかかりますので、臨床実習助成金として学生1名あたり5万円を支援

しています。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、令和2年5月から緊急学生支援寄附の受付を開始しました。オンライン授業教材の作成を助成し、新型コロナウイルス感染症の治療に従事する大学

院生の休業補償の枠組みを創りました。令和3年7月から、食生活に支障が出るほど経済的に困窮する学生に対して、京都大学生生活協同組合のミールシステムにより食事を提供する制度を開始しました。令和4年4月からは、学生による新型コロナウイルスに関する研究を助成する制度を準備しています。

このように、KMS-FUNDは、学生の生活や勉学を広くサポートする施設整備と京都大学ならではの教育や研究に携わる学生へのサポートの両輪で事業を進めてきました。お陰様で、現在までの累計基金総額は6億円を超えました(寄附者数2826名)。皆様の御支援に心より感謝申し上げます。

京都大学医学部、医学研究科は、世界的な医学の教育、研究、医療機関をめざして発展していくべき使命がありますが、国内

## 新入生へのメッセージ 未来をノックしよう



校友会会員  
藤原真治

「徳島県の公立高校から京都大学医学部に新入生が来たのは随分久しぶりで、保護者の思いについてひとつどうですか」と本稿をご依頼頂きました。

京大の学風に惹かれ、京大のみを見据え、息子は地方について自分なりにあれこれ工夫を重ねながら受験勉強に取り組んでいたようです。また、京大の高校生向け学習講座ELCAS、科学の甲子園全国大会、数学オリピック本選など、全国の生徒と交流したり競い合えたりする機会を得ては参加していました。家族としても、四国から海を渡り遠方へ送迎する長距離ドライブは楽しいイベントでした。

3月10日正午、家族はそれぞれの場でネット上に受験番号を見つつけ、感動を分かち合いました。その後、息子は京大で学べる喜びをにじませ親元からさらりと巣立っていきました。学生にとり京都に住みやすい街のよう、つい前月まで高校生だった新入生が一からの生活をスタートと始められたのは保護者として有り難いことだと感じました。大学では、同窓の先生が久しぶりに入学してきた高校の後輩に対して生活のあれこれから研究の手ほどきまで思いもよらない手厚い御配慮を下されました。心から感謝しております。まだ1年足らずの学生生活ですが、研究室やクラブでの活動、熟講

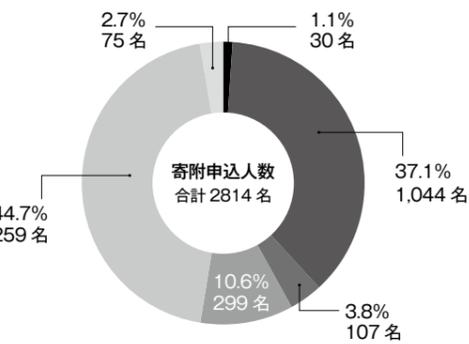
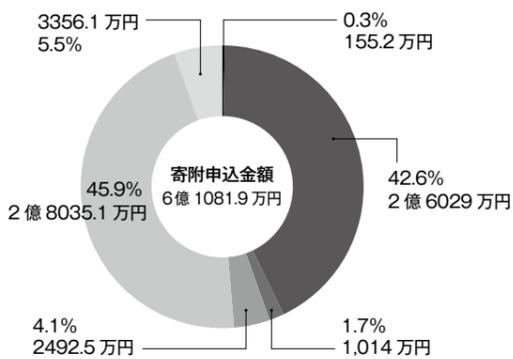
師などなど、コロナ禍にあってもそれなりに楽しみ、揉まれたようで、顔を見る度に頼もしくなってきたと感じております。京大で学ぶという環境は、積み重ねた努力でつかんだプラチナチケットだと思います。そのチケットを手に、大学では自らドアをノックしていろいろな人に出会い、様々な経験を積み、まだ(原石)である自身を自ら磨き育んでいってもらいたいと思います。逆に、誰かに自分のドアをノックされた時には自らを気さくに開いてもらいたいと思います。そこに思わぬ新展開が待っていることもあり、ノックし、ノックされているうちに、自らの知識と経験だけでは想像できなかった新しい未来が拓けてくるかもしれません。

息子は受験生としては典型的な夜型で、夜が深まるにつれ集中力が増すようでした。母親は、追い込み時期も食事のひとときは楽しんでもらいたいと願っていました。毎晩一緒に夜更かししてはサポートできることがないか探していました。また、日中、気分転換にテニスがしたいとなれば、弟が6歳分の体格差をもっとも腕前でヒッティングパートナーを務めました。母親は今も手作りの料理をちよくちよく送るなど家族はこれからもサポートを続けるつもりですが、今後はお師匠さんや率直に本音を語り合える仲間の存在が大きな拠り所になってくることと思います。よい出会いがあることを願います。

私自身は、医療の谷間に灯をともしという一節が校歌にある大学を卒業して出身県に戻り、山間へき地の診療所に勤務し続けている医師です。地域で唯一の医師として、同時に地域の住民として過ごしていると、地域の方々は医療という接点を持ちつつ共に人生を歩んでいるように感じられることがあります。そのせいか、人は若い、必ず亡くなることに悩みますし、命ある間はそれぞれの居場所ので思い思いに日々を過ごして、もらいたいの感を強くします。その基盤となる健康の維持・増進や生活の支援に向け、必要に応じ多職種のスタッフと連携し、患者さんやご家族、場合により地域社会にアプローチしています。

### 令和4年教育研究支援基金(KMS-FUND)委員会委員

委員長 大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授
齋藤 通紀	機能微細形態学 教授
竹内 理	医化学 教授
伊達 洋至	呼吸器外科学 教授
中本 裕士	画像診断学・核医学 教授
中山 健夫	健康情報学 教授
山田 重人	人間健康科学系専攻生体構造学 教授
山田 均	芝蘭会事務局長
河野 矢英成	医学研究科事務部長



※ 2007年からの累計  
2021年12月31日現在

医学部生	医学科父母	人間健康科学科父母
教職員	芝蘭会員・OB	一般

### 第15回京都大学医学部校友会 総会・講演会のお知らせ

日時 令和4年9月17日(土)午後  
開催形態 オンライン開催  
申し込み受け付けはおって連絡いたします。

# 新任あいさつ

## 患者さんの希望を支える 技術・知識・ハート



京都大学医学部附属病院  
肝胆膵・移植外科 教授  
波多野悦朗

2021年4月1日付で肝胆膵・移植外科教授を拝命いたしました波多野悦朗です。同年9月30日までの兵庫医科大学消化器外科 肝・胆・膵外科主任教授とのクロスアポイントメントを終え、遅ればせながら、芝蘭会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

肝胆膵・移植外科は、2005年からの外科学講座の再編に伴い、2006年に上本伸二名誉教授の着任とともに設置されました。肝胆膵外科、肝移植や小腸移植や膵・膵島移植をはじめとする臓器移植、小児外科とカバリーする範囲は幅広く、高度にかつハイリリスクハイリターンの治療を提供する診療科といえます。これまで、生体肝移植のメツカとして国内外の移植外科医を育成し、肝胆膵がんや神経内分分泌腫瘍の診療、研究に関して大きく貢献してきました。前任の上本先生の後を継ぐ2代目として身の引き締まる思いです。

づく薬物療法、免疫療法、放射線治療を手術と組み合わせることにより cancer free drug free を目指します。これまで様々な臨床研究グループをプラットフォームにして臨床研究を行ってきました。今後は、多機関共同研究を通じて、診療ガイドラインのエビデンスを創出します。と同時に、京都大学ならではの最先端の研究シーズを臨床に応用し、患者さんの期待に応えることが使命だと思っています。臓器移植の父といわれたスターツル先生のこと

は「The history of medicine is that what was inconceivable yesterday and barely achievable today often becomes routine tomorrow.」(きのうは想像もできず、今日になってようやくできることが、えてして明日にはルーチンとなる)が医学の歴史である)があります。多くの診療科のサポートのもと、肝移植は昨年2000例を超えました。まさに、肝移植はルーチンになった部分もありますが、まだまだ助けられる命があると思います。

## 様々な健康状態を 可視化し医療・社会の 問題を解決する



京都大学大学院医学研究科  
社会健康医学系専攻  
健康解析学講座  
医療疫学分野 教授  
山本洋介

2021年4月1日付で、福原俊一先生の後任として、社会健康医学系専攻健康解析学講座医療疫学分野の教授を拝命いたしました。この紙面をお借りして芝蘭会会員の先生方にご挨拶申し上げます。

私は、2002年に京都大学医学部を卒業、宮地良樹先生が主宰されていた皮膚科学教室に入局いたしました。洛和会音羽病院での総合内科研修を経て、京都大学医学部附属病院や公立豊岡病院組合立豊岡病院などで皮膚科医として臨床漬けの毎日を送る中で、健康関連QOLを含む患者立脚型アウトカムの評価と活用に興味をいだくようになり、2006年に社会健康医学系専攻医療疫学分野の博士課程に進学しました。以来福原先生の薫陶を受け、臨床疫学研究・QOL研究の面白さに夢中となり、学位取得後も医療疫学分野の教員として、患者立脚型アウトカムに関する研究に一直して取り組んでまいりました。2013年には英国シエナイールド大学にて在外研究に従事。帰国後は、京大病院臨床研究総合センター(現先端医療研究開発機構)にて、医療従事者を対象とした臨床研究学習プログラムの企画運営に中心となって携わらせていただき、教育に関する多大な経験を積むことができました。



## 東京

### 「2022年芝蘭会東京支部総会」及び「第20回京都大学健康科学フォーラム」の開催

令和4年2月5日(土)午後4時より、「2022年芝蘭会東京支部総会」ならびに「第20回京都大学健康科学フォーラム」を、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行下において、オンラインにより開催しました。Zoom会議は約2時間を用途に、進行・諸問健雄(幹事)、アシスト・古澤雅子(事務局)が担当しました。

するための研究と教育にも取り組む所存です。芝蘭会会員の先生方におかれましては、ご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

開会挨拶では、初めに、ご逝去された会員の方々に全員で黙祷を捧げた後、大高道也支部長からは、まず、コロナ禍の克服を目指すべく、昨年に続き、今年もオンラインでの総会と健康科学フォーラムを開催することに深く謝意が表されました。次に、東京支部の今後の活動方針が述べられました。本同窓

会が会員相互にとってより充実した交流の場となるよう、とくに次の提案がなされました。

- (1)「会員名簿」の発行
- (2)「芝蘭会東京支部だより(仮称)」を発行する。「支部だより」には、会の活動・会計報告、事業計画をはじめ、新会員等の自己紹介、その他、会員の活動の報告やエッセイ等も紹介していく。また、会の現在に至る沿革等も記録する。
- (3)20年間続けてきた「京都大学健康科学フォーラム」については今後とも充実に努め、基礎・臨床・社会医学等のバランスにも配慮し、ときに他学部、他大学からの演者も招聘する、などが提案されました。本部の「芝蘭会報」には今後とも演者の査読を得て掲載する。

実務的な年間の事業報告、会計報告をはじめ、医学部の大高道也・二木隆が確立に尽力した全学の「京都大学東京支部連絡会」の活動報告は山村隆代表幹事から行われました。

なお、本部からの来賓、竹内理教授より、京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センターの設置や、京都大学の医学教育への取り組み等についてのご報告がありました。

今回、ご多忙な中、ご協力いただいた40名近い参加者、フォーラムにご協力賜った竹内、山村の両先生、学生記者を含む芝蘭会本部の皆様のご協力に、深く謝意を表するしだいで。

（文責・大高道也）

ラムにご協力賜った竹内、山村の両先生、学生記者を含む芝蘭会本部の皆様のご協力に、深く謝意を表するしだいで。

同フォーラムは、左のプログラムにより開催されました。

初めに山村先生から多発性硬化症、視神経脊髄炎の治療等における最近の進歩についてご講義いただきました。

まず、多発性硬化症についての簡単な説明ですが、中枢神経系の脱髄疾患で、現在では自己免疫疾患であることが、遺伝子解析の結果や免疫治療の有効性などから明らかになっていきます。一方で、本邦の患者数は1975年頃では470例ほどでしたが、2014年には19400例まで増加しており、遺伝子異常だけでなく環境因子の存在が予想されるようになってきました。

山村先生は、元来は欧米白人に多い疾患であったことから、食生活の欧米化との関係性に注目され、本疾患患者の腸内細菌叢について研究されています。山村先生らが2020年に発表

### 第20回 京都大学健康科学フォーラム

座長：大高道也(支部長)  
新藏礼子(東京大学教授)

#### 講演 1(約25分、質疑5分)

「多発性硬化症及び視神経脊髄炎の治療などにおける最近の進歩」

演者：国立精神・神経医療研究センター  
神経研究所 特任研究部長  
山村 隆氏

#### 講演 2(約25分、質疑5分)

「ウイルス感染に対する免疫応答の理解と対策」

演者：京都大学大学院医学研究科  
分子生体統御学講座医化学分野教授  
竹内 理氏

された論文では、多発性硬化症の進行に伴って腸内細菌叢、腸内環境が変化していくことが明らかになっており、本疾患の新しい診断や治療を開発する手がかりが得られました。また、本論文によつて多発性硬化症が全身疾患であることが示され、山村先生は、本疾患を神経内科医のみが扱う現状を替えていく必要があると強く主張されました。腸内細菌叢といえは、大腸がんなような有名なものだけでなく、潰瘍性大腸炎、関節リウマチ、精神疾患、パーキンソン病等、様々な疾患との関連が示唆されているホットな研究分野です。スーパーマーケットやコンビニエンスストアを見渡してみれば様々な食品で溢れています。健康食品のように見えて実は脂質の多い食材、食塩含有量の多い食材がたくさんあります。

私たちもあと1年で医療現場に入る学年となり、健康維持の大切さについて痛感しております。できる範囲で食生活を是正していきたいと考えております。この記事が、皆さんも食生活について少しでも考える機会になれば、と思っております。次に視神経脊髄炎(NMO)の治療における最新の進歩についてご講義いただきました。治療が確立していない20世紀では、発症からおおよそ7年以内で患者の3割が全盲になる、という恐ろしい疾患で、臨床経過が多発性硬化症に類似していることから、長い間両者は混同されてきました。そこから21世紀になり、2005年の抗AQP4抗体の発見を機に、両者は明確に区別されるようになりました。その後の研究で山村先生は、NMO患者の末梢血内でプラス

マブラストの増殖が起こっていること、この増殖現象がNMOに特異的であること、そのプラスマブラストが抗AQP4抗体を産生していること、そしてプラスマブラストの生存がIL-6依存性であることを発見されました。さらに2019年には、抗IL-6受容体抗体サトラリスマブのNMOへの有効性を示す論文がThe New England Journal of Medicineに掲載され、サトラリスマブは2021年末において50か国以上で承認されました。

山村先生のサトラリスマブの一例は、基礎研究者の夢を体現したかのようなお話ですが、このような実績であっても何の対価も得られないという現状は非常に残念でもあります。非常にシビアな問題であることは私たち素人の視点からでも十分理解できることですが、研究成果に対してなんらかの対価が支払われるべきなのは言うまでもないことです。現状が長く続いて基礎研究者を目指す若者が減り、研究者が育つ土壌が日本から失われたいことを願うばかりです。

講演 2

次に竹内先生に、自然免疫について興味深いお話をさせていただきます。竹内先生はまず、世界の感染者、死者、ワクチン接種回数についてのグラフを用いてCOVID-19の現状についてお話された後、COVID-19の特徴について説明されました。その中で、マクロファージ、樹状細胞、好中球といった自然免疫が初期応答において重要であることについて触れられた後、竹内先生の研究分野である、自

然免疫に関わるパターン認識受容体について詳しく説明してくださいました。パターン認識受容体のうち、COVID-19をはじめとするRNAウイルスを認識する受容体にTLR3、TLR7、TLR9、RIG-I、MDA5などがあり、これらの受容体は最終的には共通の転写因子を用いてI型インターフェロン(IFN)を産生する機構があるとのことでした。その後、COVID-19には、感染を成立させるためにIFNを抑制するようなタンパク質を産生する機構を持っているもの、それでもやはりIFN応答はCOVID-19の重症化を防ぐために重要であるという報告を紹介されました。COVID-19の重症化についての話は我々医学生にとっても身近に感じて

いるところであり、大変興味深い内容でした。次にお話の内容は、自然免疫における新たな抗ウイルス応答因子についての研究へと移りました。HIV-1(エイズウイルス)の感染のメカニズムにおいて、RNA結合タンパク質(RBP)はウイルス抑制に関連することが考えられており、そうした中で新たな抗ウイルスRBPについてスクリーニングしたところ、N4BPIというタンパク質が同定されたことと説明されました。このN4BPIはHIV-1抑制因子として機能している。それがMALTIというタンパク質分解酵素によって分解されると、HIV-1の潜伏感染からの再活性化に寄与するということがわかっており、N4BPIやMALTI

はHIV-1潜伏感染・再活性化を標的とした新たな創薬ターゲットとなる可能性があるとのことでした。続いて、Regase-1を標的としたサイトカインストームの抑制についての研究について紹介されました。Regase-1はRNA分解酵素の一つで、サイトカインmRNAを分解することで炎症を収束させる効果があり、核酸医薬によつてRegase-1の発現を増強することで、マウスにおけるADRSに対し抑制効果を示したという話を説明されました。その後、インフルエンザウイルス感染に対するRegase-1を標的とした核酸医薬の効果についてのお話から、今後の研究課題として、その他のRNAウイルス感染や炎症性疾患の制御が期待できると説明されて講演を終えられました。

講演終了後も参加された先生方からの質問が絶えず、大変有意義な講演会となりました。我々学生にとつても大変勉強になる内容でした。また、今回はオンラインでの開催ということ、例年行われる写真撮影や食事は省略となりました。いち早く新型コロナウイルスの感染が収束し、以前のような生活ができることを願うばかりです。最後になりましたが、このような会(総会及びフォーラム)にお招きくださった大高支部長をはじめ関係各位に深く感謝いたします。なお、講演1,2の要旨については、演者の先生方にご査読いただきました。併せて御礼申し上げます。(文責・5回生森田瑛/吉村太貴)

第二の帝大

大阪から京都への裏話

昭和36年卒業 加藤静允

4、5才の頃、親戚一同の寄る佛事の席で「京都の帝大はアンドウノゾイサンが大阪に決まっていたんを『学問ハ京都ヤ!』言うて、東京へお頼みに行かはって、吉田に建ったんやし」と言う話を兩三度聞いた憶

えがあります。その時は「何んノコッチャ」と思っていたのですが、20年ほど前大阪の友人から大阪府庁の構内に道路にはみ出した植込みがあり、そこに建てられた碑に「ここに在った第三高等学校がある理由により京

都吉田へ移された云々」とあると聞き、昔々婆さん達に聞かされた話を思い出し興味を湧かしました。アンドウノゾイサンとは安藤精軒の四女でありました。精軒は幕末明治にいらんなことをやつた人物のようで、平成25年に府立医大の八木聖弥先生が思文閣出版から上梓された『近代京都の施薬院』を読むと、今更ながら驚くほどいろいろなこと

をやっています。命がけで行動し、ここがほぼ完成したらスツと手を引くような所はみごとなき方です。安藤精軒は養父桂洲と共に京都の西洋医学の始祖でシボルト弟子の日野鼎哉家に一時養子として入っており、一時期日野姓を名乗っています。この流れで長崎より天然痘予防の痘苗を入手、早くに京で種痘をはじめました。大坂の緒方洪庵への痘苗はここからの分苗です。

明治維新の慶応4年(明治2年)に函館病院で働いていたのは私にとつては大変な驚きです。「やっぱり、普通の町医者とはチョットちがたんやな」と思わざるを得ません。この時、敵方の負傷者を治療することを強く建言、採用されているのです。丸太町橋を渡る時、上流西岸に水西荘(山紫水明処)の小さい葛屋葺きの屋根が見えます。幕末明治の頃あの一劃はアンドウノゾイサンが所有していた、あそこで新婚生活を始め、その後無料診療などもしてたんなあと想います。橘曙覧の本家・正玄家へ精軒の姉が嫁いでいることを知って驚きました。曙覧が蓮月尼に会いたくて上京して来た時、泊めてもらったもあそこやったんやろな、聖護院岡崎へはすぐやしなあ、などと想っている自分に気づきます。

「近代京都の施薬院」を読んだ、大変驚いたのは安藤精軒の葬儀の時の記録です。施薬院に

全財産注ぎ込んで最後は岡崎の借家の四畳半で死なはったんやと聞いていたのですが、なんと南禅寺の金地院で神式により執り行なわれています。その参列者は政財界や皇室関係はもとよ

り私が驚き恐れ入ったのは、荒木京大総長、伊藤医科大学長とともに、私の入局した京大小児科では神様の如くに伝えられて



大阪府庁構内の植込み



「史跡 舍密局跡」の石碑

史跡 舍密局跡

明治二年五月一日政府はこの地に物理化学を専攻する舍密局という学校を創設した。この場所はその後度々名称を変えて明治十九年第三高等中学校となり明治二十二年八月京都市吉田に移り明治二十七年九月から第三高等学校となった。この植樹は舍密局の生徒が植う緑陰として当時からあったという。

昭和三十四年四月三十日 府指定  
昭和五十四年十二月  
大阪府教育委員会  
三高同窓会建立

いる初代教授の平井毓太郎先生のお名前まで並んでいたことでした。「これは確かに何かあったんやな、当時は京大がほぼ完成して20年足らずや、大阪から京都に(ある理由)で移された裏話はまだまだ多くの人々の暗黙の裏に知るところであつた。」と感じたので、それ以来、精軒と関係のあつたと思われる多くの明治のお偉い人の日記や裏話を注意するようになっていたのです。

京都大学の在りし日に想いを馳せる

医学研究科 ゲノム医学センター 教授 松田文彦

ちの昭憲皇太后に御種痘申し上げている。この時精軒21才。まで並んでいたことでした。「これは確かに何かあったんやな、当時は京大がほぼ完成して20年足らずや、大阪から京都に(ある理由)で移された裏話はまだまだ多くの人々の暗黙の裏に知るところであつた。」と感じたので、それ以来、精軒と関係のあつたと思

われる多くの明治のお偉い人の日記や裏話を注意するようになっていたのです。今回、京都S大獣医学部が四国へ奪われた裏話を仄聞した時「ユウリイカ(わかた)と叫びました。『ヤングトナキ方の一言のササヤキに間違いない』。精軒は一条家のお出入であり、安政2年当時7才の富貴姫(の

「史跡 舍密局跡」の石碑(写真は、大阪の上町台地の最北部の、大阪城を東に見て、大阪府庁、大阪府警察本部、家庭裁判所などが集まる大手前の一等地に立つ。東西に走る本町通りを挟んで家庭裁判所の北向かいの歩道に、石垣で巻かれた高さ1メートルほどの小さな塚に、高さ数十メートルもあるうかという立派な樟が一本植わっている。そして、本町通り沿いの歩道は、塚に当たって大きく北に迂回している。樟の根元にはこの石碑に加えて、「舍密局址」と刻まれた古い石碑と小さな祠もひとしおであった。

の父と呼ばれるオランダ人化学者クーンラート・ウォルテル・ハラタマの胸像と、「大阪衛生試験所発祥の地」の碑が建てられている。明治2年、この地に日本初の舍密局(理化学学校)が開設された。「舍密」とは、オランダ語のchemie(化学)の当て字である。舍密局を前身として作られた第三高等中学校が明治22年に大阪から京都の吉田に移され、明治27年に京都帝国大学の礎となる第三高等学校となったことが、三高同窓会によつて昭和54年12月に建立されたこの石碑に簡潔かつ明瞭な言葉で刻まれている。第三高等学校のちに京都大学教養部を経て総合人間学部が改組されたことは、広く知られるところである。春風に涼やかに揺れる大樟の葉を眺めると、勉学の合間にこの大木の陰でくつろぐ明治の大先輩たちの姿が臉に浮かぶ気がして、感慨もひとしおであった。

人事異動

Table of personnel changes including names, positions, and departments such as R4.1.1 岡田 浩, R4.1.1 伏見 育崇, etc.

Table of personnel changes including names, positions, and departments such as R4.4.1 田畑 阿美, R4.4.1 林 悠, etc.

謹んでご冥福をお祈りいたします

日付はご逝去日

Table of deceased members with columns for name, birth date, and death date.

Table of deceased members with columns for name, birth date, and death date.

Table of deceased members with columns for name, birth date, and death date.

会員計報

芝蘭会会員名簿(75回・2022年版)の刊行について

会員登録の確認調査(7月送付予定)にご協力ください

拝啓 会員の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年は芝蘭会会員名簿の刊行の年にあたり、令和4年11月末の刊行に向けて編集作業を進めております。

今回の会員名簿の作成は、令和4年7月、会員へ調査書類発送、10月、会員データ修正、11月末名簿発行を予定しております。

つきましては、今回、会員の皆さまのところへ「会員名簿調査確認書」(郵便はがき)及び、会員名簿購入申込用紙等をお送りさせていただきます。(7月送付予定)

なお、ご確認頂く「会員名簿調査確認書」の記載内容は、本年6月末日現在の情報を印字しています。すでに、変更届を提出されている場合には、ご容赦下さいませ

うお願い申し上げます。

会員名簿は、芝蘭会活動を活発化し、また、会員相互の親睦と交流を深めるためには、必要不可欠のものであり、名簿掲載内容の充実が求められます。それには、会員の皆さまのご支援、ご協力がぜひとも必要であります。

また、芝蘭会会員名簿の販売は芝蘭会員、賛助会員及び広告掲載企業に限らせていただいております。会員間の交流を図るためにも名簿掲載にご協力いただき、前記「会員名簿調査確認書」を、必ず芝蘭会事務局へご返送くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

令和4年6月

一般社団法人 芝蘭会 会長 岩井一宏

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。

ぜひ、ご利用いただきたくお願ひ申し上げます。手続きについては芝蘭会事務局までお問い合わせください。

手続き等については、

芝蘭会事務局

TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場であり、支那活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。

事務局から

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。

制作協力 京都通信社 デザイン 納富進